

なるほど! わかった!

2022年度

戸田市のおさいふ

おさいふの
中身を
一緒に見てみよう!



戸市の財政案内人
おさいふくん



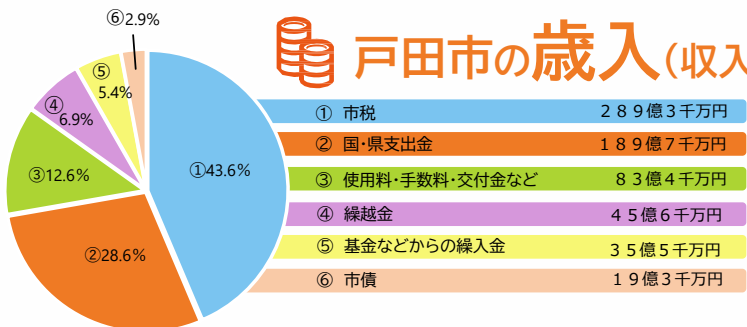


おさいふの 中身を見てみよう



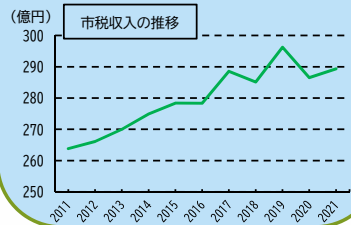
(2021年度 普通会計決算)

戸田市の歳入(収入)



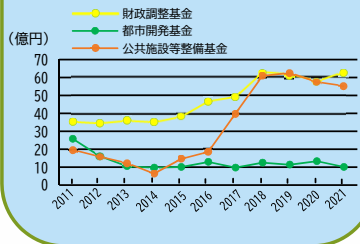
市税は最も重要な財源

市税は、市の収入の40%を占めており、市の発展のために欠かすことのできない最も重要な財源となっています。納付された市税は福祉や教育、健康づくり、子育て、環境、防災などの事業や公園・道路などの社会資本の整備に使われ、皆さんの日常生活を支えています。



安定して事業を行うために 基金(貯金)を活用

家計でも貯金があるように、市にも貯金に相当する「基金」というものがあります。基金があることによって継続的に事業を進めていくことができるほか、突発的な支出や経済状況の悪化等にも対応することができます。



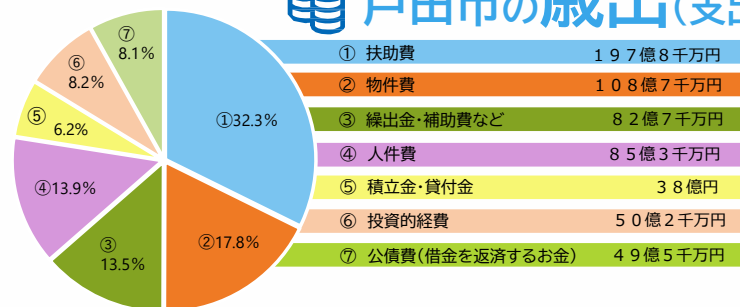
みなさんのご家庭でも家計という「おさいふ」があり、お給料などの「収入」のなかで計画的に支出をして生活してますよね。

戸田市の「おさいふ」でも同じように、市税などの「収入(歳入)」のなかで様々な「支出(歳出)」をして、市民生活が滞りなくまわるよう、計画的にやりくりしています。

2021年度の「収入」と「支出」を詳しく見てみましょう。



戸田市の歳出(支出)



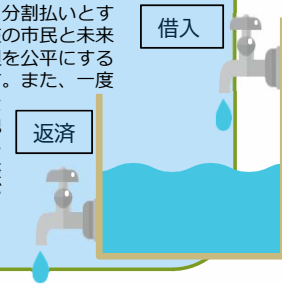
扶助費は私たちの生活を 支える基礎

扶助費とは、社会保障の一環として、育児、高齢者、障がいのある人、生活困窮者を福祉の面から支えるお金です。近年、扶助費は増加傾向にあり、戸田市では、10年間で約85.2億円も増加しています。

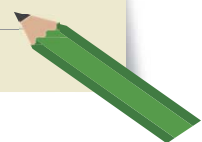


市債(借入金)の活用と 公債費(返済金)

家計でも住宅や車など大きな買い物をするときは、ローンを組んで買う場合があるように、市が大きな施設を建設するときなどは、「市債」という借金をしてお金を工面しています。市債を利用し、分割払いとすることで、現在の市民と未来の住民との負担を公平にすることができます。また、一度に大きな支出をしないので、他の事業と並行して公共施設の整備を行うことができます。



戸田市の財政って どんな状態なの？



収入

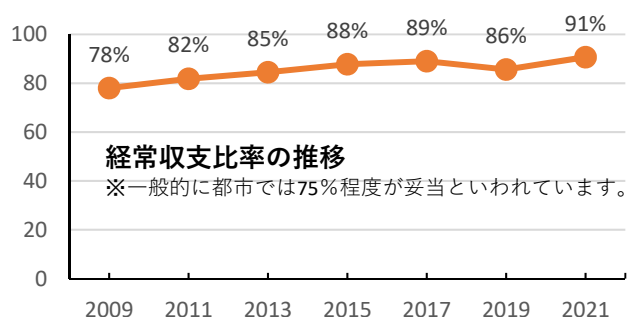
固定費

新たな行政サービスを行うために使えるお金

現在、戸田市では社会保障費が増加しているなど、家計でいうところの「固定費」（例：家賃や食費、光熱水費、家や車のローンの返済など、生活していくうえで継続的に必ずかかる費用）が上がっていることが懸念されています。

市税などの収入のうち、固定費への支出が増えると、新たな行政サービスを行うために使えるお金が減ることになります。

固定費が増え続けるとどうなるの？



社会情勢の変化に伴い、行政サービスに対するニーズも変わりつつあります。新しい仕事に使えるお金が減ることで、新たなニーズや公共施設の維持補修・建替えなどに対応することが難しくなっています。

市税などの収入のうち、固定費（「経常的経費」といいます。）の支出が占める割合を「経常収支比率」といいます。戸田市の経常収支比率は上昇傾向にあります。

経常的 経費って？

毎年度継続的に支出される経費のことです。人件費や扶助費、公債費などがあり、その中には保育所の運営費や医療費の助成のように、途中でやめるのが難しいものや、市の単独事業として続いている状態のものがあります。

経常収支 比率って？

市税など毎年度継続的に収入され、かつ、使い道が特定されていない財源のうち、どれくらい経常的経費が占めているかを示す指標で、以下の計算式から求められます。

比率が高いほど、お金の使いみちの自由度が少なく、新しい行政サービスを我慢する必要が出てきたり、急にお金が必要となった場合に対応しづらくなったりします。

$$\frac{\text{市で負担した支出のうち経常的なもの（臨時的に発生したものを除く）}}{\text{市の自主財源のうち経常的なもの（臨時的に発生したものを除く）}}$$

新たな行政ニーズに対応するために

新たな行政ニーズに対応するためには、財源が必要となります。しかし、その財源にも限りがあります。市では、公平性・公益性・有効性の観点から、現在実施している事業の見直しを進めていきます。

時代に合わなくなった事業や市が行うことの有効性が低下した事業を見直すことにより新たな行政サービスを提供するためのお金を確保し、多様なニーズに対応できるようになります。

保育園

市の負担 約30.3億円

市民一人あたり 21,493円



保育が必要な子どもたちが保育園へ通うことができるよう、保育施設や体制の整備を行っています。保育園の運営費は、保護者が支払う保育料のほか、国、県及び市の補助によってまかなわれています。戸田市には2022年4月1日現在、公立保育園と民間保育園、小規模保育施設など、併せて57の認可保育施設があります。

学校給食

市の負担 約7.4億円

市民一人あたり 5,275円



小学校12校と中学校6校に栄養バランスのとれた、安心安全でおいしい給食を提供しています。なお、月に1回は日本各地の郷土料理を紹介し、給食を通して、日本の食文化にも触れる機会を設けています。また、費用の約4割は材料費として保護者が納める給食費によってまかなわれています。

図書館

市の負担 約3.7億円

市民一人あたり 2,652円



図書館には、中央図書館、上戸田分館、下戸田・美笹支所・下戸田南の3分室及び戸田公園駅前配本所の6カ所のサービス拠点があります。一般書や児童書など約40万冊の蔵書があり、子どもから大人まで市民の学びの場となっています。令和3年7月には中央図書館で軽食販売をスタートし、読書を楽しみつつ、憩いの場としても過ごせるようになりました。

防災事業

市の負担 約1.3億円

市民一人あたり 942円



災害時に正確で機動的な応急対策活動が展開できるよう、防災行政無線や災害用発電機の整備、防災備蓄倉庫の非常用食料をはじめとする備蓄品類の整備、充実を行っています。また、地域防災力の向上を目指し、防災訓練メニューの検討、ハザードブック作成のほか、自主防災会やマンション、事業所が防災資器材を購入する際にその費用の一部を補助しています。

2021年度

どんなことに
いくら
かかったのかな？



市の負担 2021年度決算のうち、
一般財源負担額

(※国県補助金や使用料、分担金を除いた純粋な市の負担)

市民1人あたり 141,206人で計算
(2022年3月31日現在の人口)

防犯対策

市の負担 約1.7億円

市民一人あたり 1,206円



市内2カ所の安全ステーションの運営、防犯パトロールの実施など、地域の安全を守るための取組みを行っています。その他、子どもの安全を守るために通学路を中心に設置している見守り防犯カメラ(令和2年度に市内全小学校区(12校300台)に設置が完了。)の整備にも使われています。

学校施設整備事業

市の負担 約15.4億円

市民一人あたり 10,953円



学級数の増加対策、施設の安全性の向上、長寿命化を図るため小・中学校の改築等の取組みを行っています。また、教科指導や学級運営を円滑に進められるよう、教職員一人1台ずつにパソコン貸与したり、各教室には大型テレビとパソコンを設置し、デジタル教科書等を用いたICT教育環境の整備をしています。

高齢者生活支援等事業

市の負担 約1.3億円

市民一人あたり 939円



紙おむつ等の支給や食事の配送、歩行補助つえの交付、一般の交通機関を利用することが困難な方の移送サービスの利用助成など、在宅で暮らす高齢者が安心して、健康でいきいきとした毎日を過ごせるよう、様々なサービスを提供しています。

公園の維持管理

市の負担 約4.4億円

市民一人あたり 3,182円



市内にある約159カ所の公園や緑地を安全に利用していたるように、設備の点検や清掃などに取り組んでいます。また、令和3年3月に戸田市公園リニューアル化計画を策定し、公園の機能と役割を市域全体で整理するとともに、公園が持つ潜在的な魅力を引き出し、利用したくなる公園を目指しています。

戸田市と競艇

1954年に戸田競艇組合（現在の※戸田ボートレース企業団）が設立されて以来競艇は戸田市の特色の一つとなっています。

競艇による収入（競艇配分金）は、教育文化の発展、体育振興、その他市民の福祉の増進を図るため、幅広い分野に使われています。

「戸田市は競艇の収入があるから大丈夫」とよく言われてきましたが、かつてと比較すると収益の減少等により競艇配分金の額も減少しています。これからは競艇配分金の確保に努めていくとともに、貴重な財源として、市民生活に競艇配分金を活用していきます。



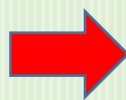
競艇配分金が豊かであった時代に始めた事業を見直していく必要があります。

競艇配分金
10億円

競艇配分金
5.5億円



2000年度



2021年度



興味を持ったなら、ホームページにアクセスしてね！



戸田市の財政

検索

発行 戸田市役所 企画財政部財政課
住所 〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1-18-1
電話 048-441-1800（内線415・416）